

7. 京都幸福指数の考え方と取り組み

電通総研 部長

京都経済同友会の指標作成担当

袖川 芳之

京都の幸福指標についてお話しさせていただきます。私は実は2005年の小泉政権のころに内閣府に2年間勤務していたことがあり、そのころに幸福の研究を始めました。先ほど内閣府の「豊かさ指数」がお話に出ましたが、「豊かさ指数（PLI）」の後に、「暮らし指数」というものが発表されていて、その計画にも参加しました。こういう指標づくりをしてきた関係で、京都の同友会が指標をつくるという時にお声掛けいただき、個人として参画しています。



まず、京都経済同友会さんが幸福指数をつくりたいとおっしゃったのですが、私は「幸福指標は、基本的にはつくれません。暮らし指数とか豊かさ指数もある意味で破綻してしまったのは、やはり1つの数字にまとめることに難があるということで、あまり過大な期待をしないでください」と申し上げました。

ただ、「前提条件を置けば可能な場合もある。例えば、指標の目的とか課題意識が明快であれば、それに沿って指標を作ることはできるかもしれません」と申し上げました。

もう1つは、限定された集団の中、つまりある程度、幸福の志向性なり形なりが共通している人々の間であれば出来るのではないかと思います。

それから、幸福指数がなぜ必要なのかということですが、「人々の欲望の対象がGDPで計れないものやお金で買えないものに最近移ってきている」ことが背景にあるだろうと思っています。今、人々が最も求めているものは何かというと、「地域、職場、家族」といった高度経済成長時代に人々が依存していた集団が今崩れてきたために、それに代わって、何か自分の影響力を発揮できる帰属集団を持つこと、これを「自己効力圏」と名づけていますが、この「自己効力圏」を持つことが、今人々の中で優先順位の高い欲望として上がってきているのではないかと思います。

例えば、最新の『国民生活に関する世論調査』によると、生活満足度が65.4%になっています。震災後の去年の2011年の10月に調査された数値ですが、東日本大震災の前年よりも1.7ポイント上がっています。これだけ厳しい社会であったにもかかわらず幸福度が上がるというのはなぜかということ、恐らく人々が社会の中に「課題」を見つけることができたからだだと思います。自分が何かに参画できる、そういう場ができてきた。そのことに

対して幸福度が上がったのではないかと考えています。これは、「自己効力圏」が社会のいろいろなところで発生し始めているということなのではないかということです。

それからもう1つ強調しておきたいのは、幸福指数はGDPに代わるものなのかどうかということです。昨年もNHKの番組で幸福について取り上げられていたのですが、冒頭に「幸福指数はGDPに代わる指数である」というようなことをおっしゃっていましたが、それは違うだろうと思いました。決して幸福指数はGDPに代わるものではなくて、あくまでもGDPを補完して、包括的な指数にするものであると考えています。

1. 基本的な考え方

1) 幸福指数の作成は可能か

- **目的や課題意識**があれば作成できる。
- 利害をある程度共有している**限定された集団内**であれば作れる

2) 幸福指数はなぜ必要か

- 人々の欲望の対象がGDPで測れないものやお金で買えないものへの比重が高まってきた
- 最も求めているのは、「地域、職場、家族」に代わって、自分の影響力が及ぶ「**自己効力圏**」を持つこと

3) 幸福指数はGDPに代わるものか

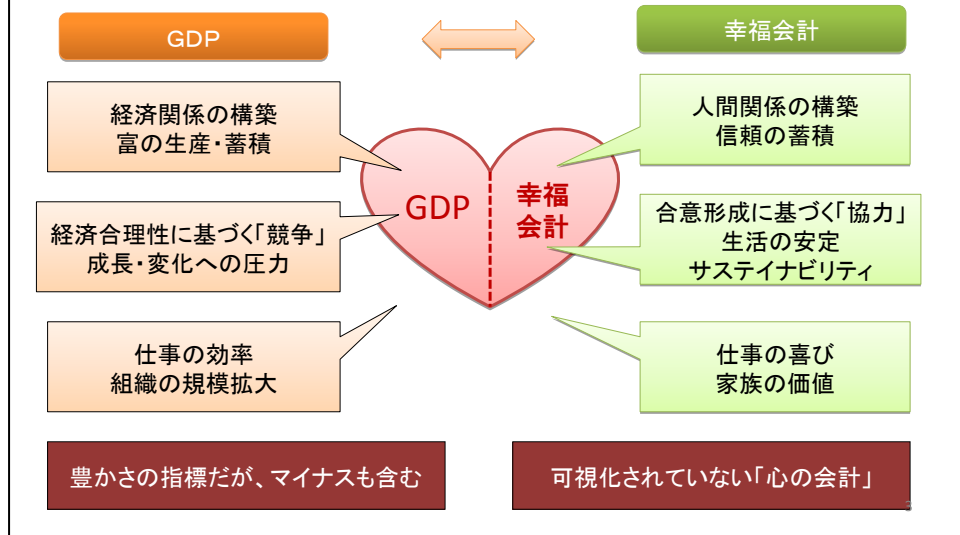
- **NO!** GDPを補完し、GDPをより包括的な指数にするもの

2

すなわち、幸福というのは1つの包括的な概念ですから、GDPに測っているものと測っていないものを想定した場合、今まで測られていなかった心の会計部分を足して考えていくというのが、幸福指数の考え方ではないかと考えています。GDPには経済関係の構築、あるいは富の生産の蓄積のような目的は測れるわけですが、人間関係の構築とか信頼の蓄積は全く測れません。それから経済合理性に基づく競争とか、成長変化へのドライブは測れますが、合意形成に基づく協力とか、生活の安定、サステナビリティは測れません。それから仕事の効率とか組織の規模拡大は測れますが、仕事の喜びとか家族の価値については測れません。これを足して、より包括的に完璧な指数にしようということではないかと考えています。

2. 幸福会計で幸福感を補完する

「幸福会計」を加えることで、人々が求めるものが包括的に捉えられる



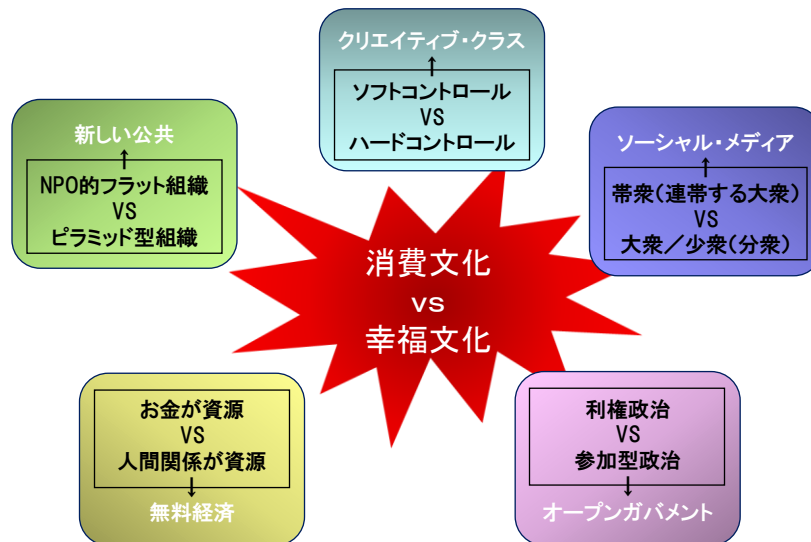
今、外見は似ているけれども、中身が全然違うというものがたくさんあります。例えば、働き方では、組織の中でがちがちに規則に従いながら働くハードコントロールの職場と、より自由に能力を発揮できるように働くソフトコントロールによる職場があり、後者はクリエイティブ・クラスとしての働き方に合っています。メディアでも、大衆メディアから、しだいにソーシャル・メディアになってきている。同じ政治でも、利権政治から、オバマさんが08年の選挙で人気を得たように、参加型の政治という、全く違った政治を始めています。

ビジネスのリソースでも、お金が資源となり、そこに人が集まっていたわけですが、今は人間関係が集まるところに更に集まってくるという関係になっています。

組織のあり方もピラミッド型の組織ではなくて、NPOのようなフラットな組織の方が好まれています。いわゆる成長時代の消費文化と、これからの幸福文化が軋みあっているのが今の状況で、よりこの幸福文化の方に人々に注目して欲しいと、そういう気持ちが幸福指標には込められていると思います。

4. カルチャー・クラッシュ

中身が違う事象が混在しているが、外見が似ているので変化が見えにくい



5

そこで、この幸福の形を何とかとらえられないだろうかということで、実験的に調査を実施しております。これは京都市の中で実施したものです。

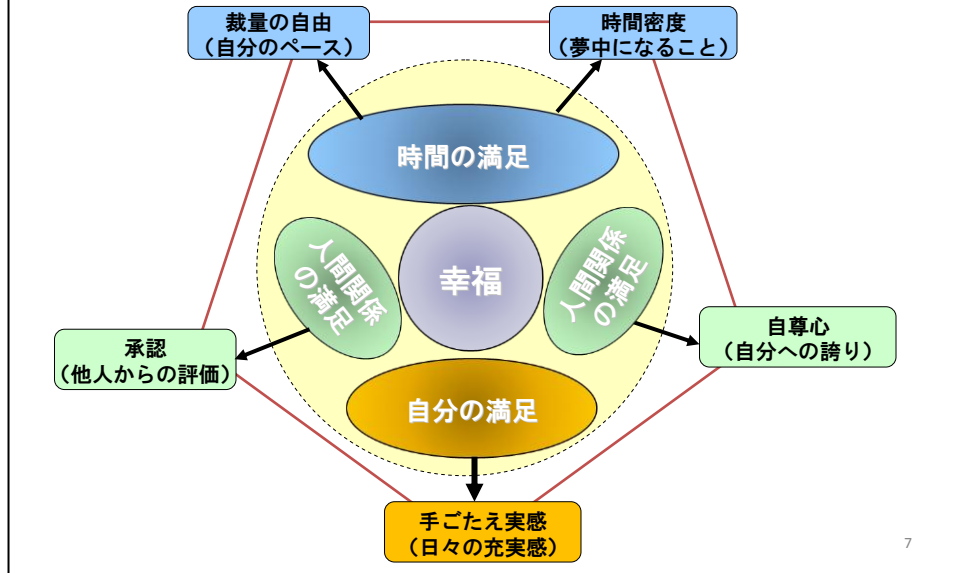
枠組みが2つありまして、1つ目が幸福のペンタゴンモデルです。今までの幸福感は「自分の満足」が幸福を決定するものであるというように考えられていたわけですが、このペンタゴン



モデルでは、これに「時間の満足」と「人間関係の満足」という要素を足していきます。時間の満足は「時間密度」と自分の時間を自由に使える自由である「裁量の自由」からなり、人間関係の満足は「承認」と「自尊心」からなります。そして最終的にそれが自分の「手ごたえ」として総括されているという形で幸福をとらえてみようということです。

5. 幸福のペンタゴンモデル

その人の最終的な幸福感の源泉がどこにあるのかを
5つの指標で評価・分析するためのフレーム

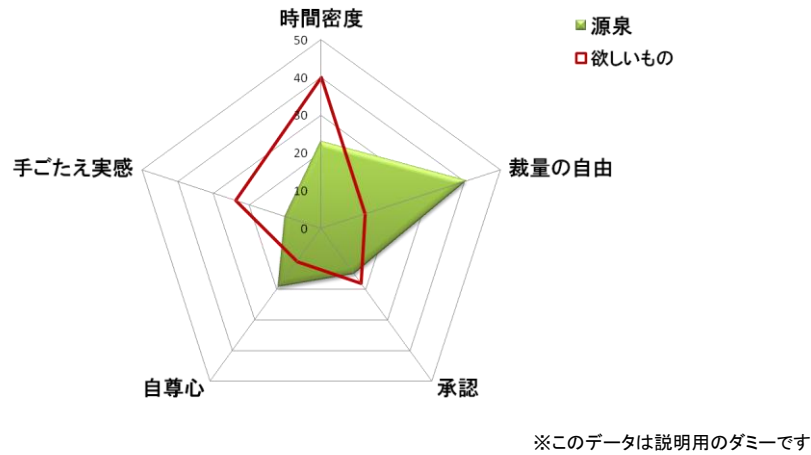


この5つの要素を具体的な調査項目に表現して調査でとらえてみると、以下の図のような形になるわけです。裁量の自由では「好きなときに好きなことができる」とか、「自分のペースで物事を進められる」とか、幾つかの質問に答えてもらって、その結果を平均しているわけです。大体今の日本人の幸福感はこのような形だと思っています。裁量の自由が突出していて、でも時間の密度、夢中になることとか、わくわくするものが少ないとか、承認が少ないとか、結果として手ごたえが余らないという形になると思います。

それでは次に、「今のあなたの状況にどのようなことが加われば、より幸せになるでしょうか」ということを、同じ項目で同時に聞きます。すると、より時間密度、夢中になるものが欲しいとか、手ごたえが欲しいというようなことが出てくるのが、今の日本人の平均的な感じですか。

6. ペンタゴンモデル分析による幸福のカタチ

自分の幸福の源泉となっているものと、今後幸福のために欲しいもの(不足しているもの)を可視化します。

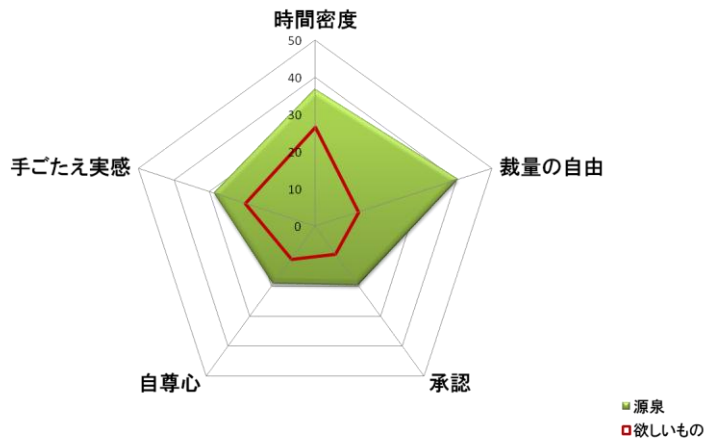


8

が、これを実際に京都でやってみたらどうなったかという、京都は、やはり非常に恵まれた都市だと思いました。バランスよく5つの項目に幸福感が広がっています。幸福の要素として欲しいものを示した赤い線が緑の領域の中にあるということは、より幸せになるためには、今あるものをもっと増やしていけば幸せになるけれども、要素的には同じものだという状況を示しています。

7. 京都人の幸福のカタチ

・全体的にバランスが良く、欲しいものよりも既に得ているものの方が多い。
・人間関係の満足がやや低得点である。

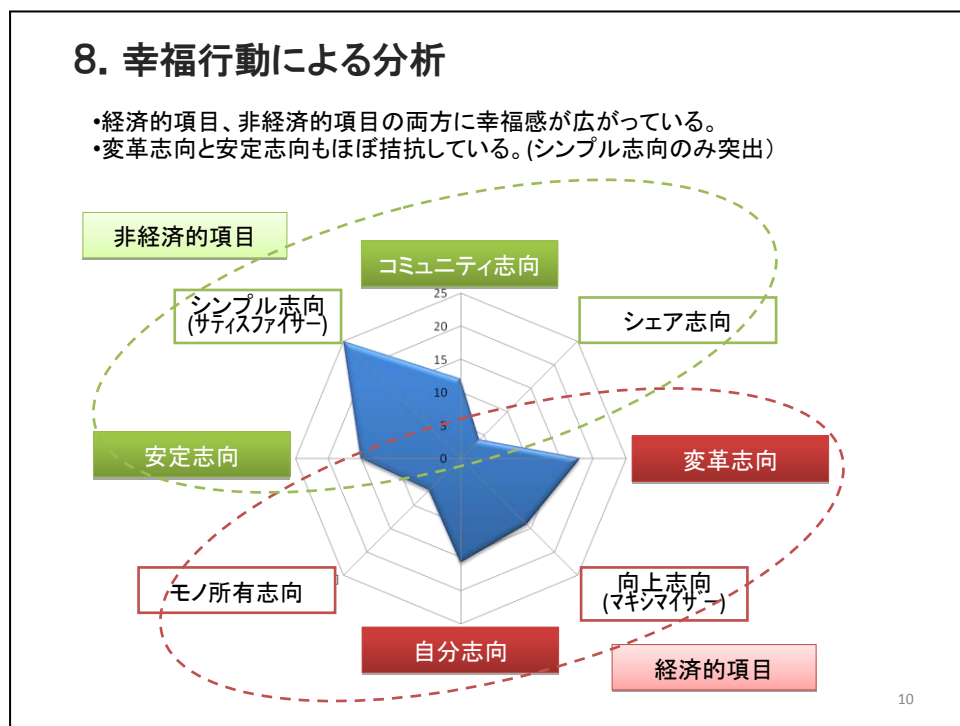


9

しかし、これだけでは詳細な分析ができないので、もう1つフレームをつくりました。このフレームは、どんなことができれば、あなたは幸せでしょうかということを聞いています。これは「幸福行動による指標分析」と呼んでいて、4つの軸を作っています。基本になるのは縦軸と横軸の2つですが、縦軸は「コミュニティ志向」と「自分志向」という軸です。自分の幸福を追求したいか、みんなが幸せになるかという軸です。それから横のほうは、「変革志向」と「安定志向」、社会を変えていきたいか、より今の状況を安定させたいかということです。

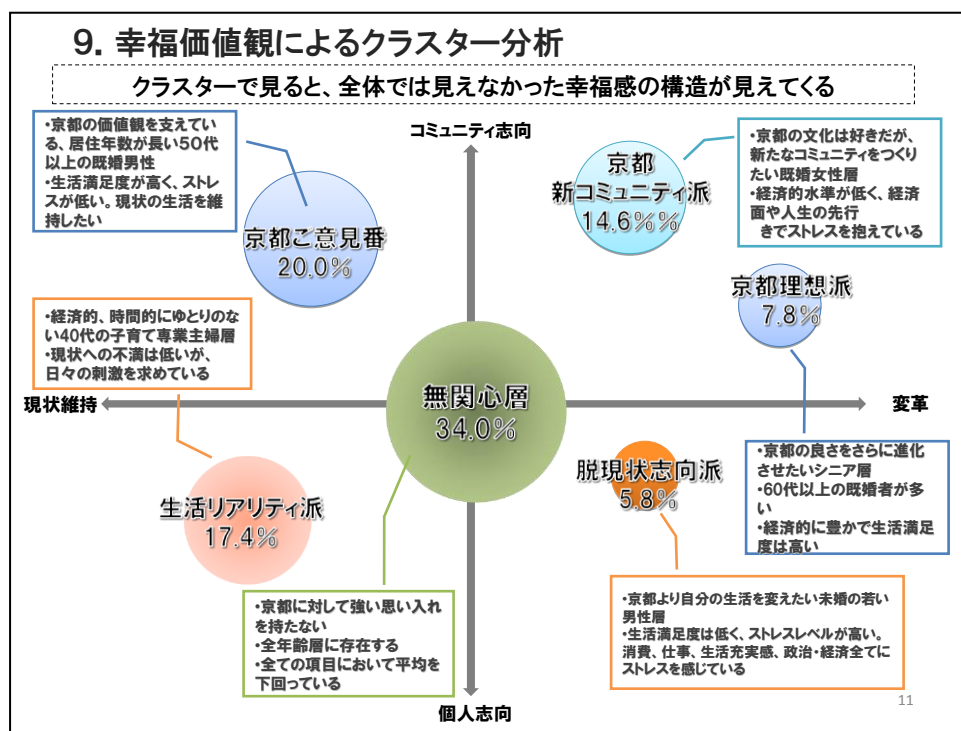
この間に2軸を設けておきまして、右上から左下のほうは、シェアをした方がよいという「シェア志向」か、もっと物を自分で持ちたいという「モノ所有志向」か。最後の軸が「シンプル志向」と「向上志向」です。シンプル志向のほうはサティスファイサー、向上志向のほうはマキシマイザーと呼ばれています。マキシマイザーは、少しでもよいもの、ワンランク上のものを持ちたいというものです。サティスファイサーはそこそこのもので良いという志向性です。この4軸8項目で評価するわけです。ちなみに、幸福論の中では、マキシマイザーよりもサティスファイサーのほうが幸せになりやすいということが言われています。

これで見ると、京都市の実際の調査の結果は青い領域で示された以下のようなものになりました。「シンプル志向」が突出しているわけですが、「コミュニティ志向」なのか「自分志向」なのかというのは、点数的にはそれほどに差がありません。それから「変革志向」か「安定志向」かについても、あまり変わりがありません。



このままではまだ幸福感を高める方法の方向性見えません。京都市という狭い領域であっても、やはりライフステージによって幸福感が違いますし、それぞれの状況によっても変わってきます。そこで、もう少しブレークダウンして見るために、クラスター分析を行いました。ここではクラスターが6つ出てきました。そのクラスターをそれぞれどのような幸せ感を持った人々がいるかということのマッピングしたものが下の図です。

調査結果では、変革派として3つのクラスターが出てきます。「京都コミュニティ派」は既婚の女性が多く、新たに京都にコミュニティをつくりたいという人です。「京都理想派」は、京都に長く住んでいるけれども、京都をこれから変えていきたいと考えるシニア層の方です。「脱現状志向派」というのは、若い20代の人々であり収入も高くなく、現状から脱出したいと考えている人です。「京都ご意見番」は、安定志向の方にいますが、京都の価値を支えているようなシニアの方々です。「生活リアリティ派」は、専業主婦の40代の方を中心とした層です。このように年齢とか、置かれている状況によって、幸福度が変わってきます。「無関心派」は全年齢層にわたり、全体の大体3分の1ぐらいいました。



同様の調査を鳥取県でも実施しましたが、大体、変革層が3つ、安定層が2つ出てきて、無関心層が全体の3分の1ぐらい出てきた構造は非常に似ていました。こういう構造は日本のどこでとってもほぼ同様に出てくるのではないのでしょうか。

10. クラスタ分析から見えること

3つの変革層、2つの保守層、1つの無関心層

<変化志向>

- 進化・・・60~70代のシニア
- コミュニティづくり・・・30~40代の既婚女性
- 破壊と革新・・・20代未婚男性

<安定志向>

- 番人・・・50~60代既婚男性
- 生活手いっぱい・・・20~30代専業主婦
- 無関心・・・全体の3分の1。全世代に分布

12

変革の方向は、今のものをより進化させていきたいという方向で、これはシニア層に多くなっています。それから新たにコミュニティをつくりたいという30~40代の既婚女性層がいます。それからもっと破壊と革新をしていけというのが20代未婚層、こういう3つのタイプが必ず出てきます。

それぞれの層ごとに見ていくと、このように幸せの形が全く違っています。この違いをどう組み合わせて、京都全体の幸福を高めていくストーリーをつくるかということだと思います。

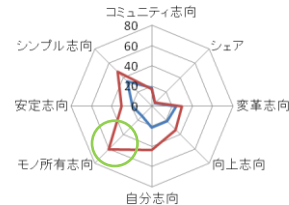
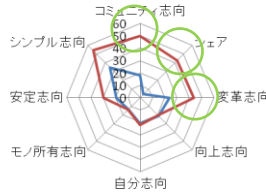
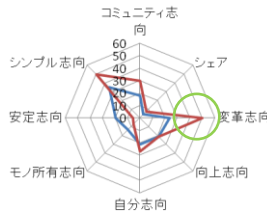
「生活リアリティ層」と「脱現志向」は親和性があります。この2つを組み合わせるためには、例えばソーシャルビジネスのようなものを起こしていけば、新たにコミュニティをつくりたいということと、京都のよさをもっと活かしていくということで、結びつけられるのではないのでしょうか。

11. 変革3クラスターの方向性

京都新コミュニティ派
変革・非経済系

京都理想派
変革・非経済系

脱現状志向派
生活変化・経済系



新しいコミュニティづくり

<歓迎する政策>

- 人間関係の煩わしさの軽減
- 生活コストの低減
- 京都居住者の既得権益を抑えて、寛容性のある開かれた街づくり

京都の良さの進化

<歓迎する政策>

- 京都を日本人の心のふるさとに
- 公共交通機関の整備
- 教育水準を高める
- 多少の切捨てはしかたがない

最先端への革新

<歓迎する政策>

- 公共交通機関の整備
- 伝統文化の振興による産業の振興
- 国際会議やスポーツイベントの誘致
- 起業環境整備など雇用の創造

13

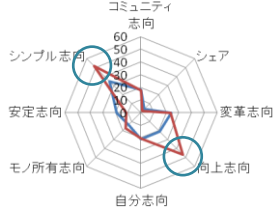
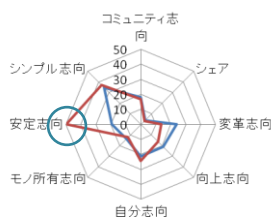
それから、「脱現状志向」と「京都理想派」の方は、例えば京都にはお坊さんがいたり、大学の先生がいたり、職人さんがいたり、いろいろな先生がいます。そういう方々が京都の競争力を語るような京都カレッジというようなものを作って、それを若い人に伝えてイノベーションを起こしていくという方向でこの2つを結びつけられるのだろうと思います。その方向性で、京都全体の幸福感を高めるということができないのではないかと思います。無関心派はどこに行くかというのは今のところちょっとわかりません。

12. 非変革3クラスターの方向性

京都ご意見番
バランス系

生活リアリティ派
バランス系

無関心層
バランス系



今の価値を守る

<歓迎する政策>

- 京都を日本人の心のふるさとに

洗練された生活

<歓迎する政策>

- ショッピングセンター、ファッション情報、レジャー施設など、余暇・消費の充実
- 子育てしやすい環境
- 教育水準を高める

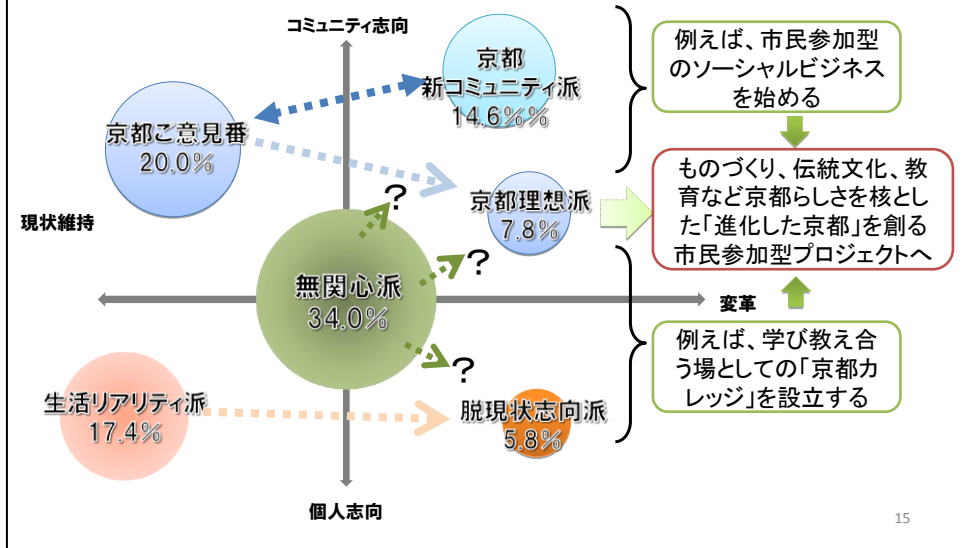
内向き志向

京都に対する参加意識が全般的に低い

14

13. 全体の幸福感を高めるストーリーづくり

- ・それぞれの幸福感を組み合わせ、全体の幸福感を高めていく。
- ・人々の「自己効力圏」を作れるように政策のストーリーを住民と共有する。



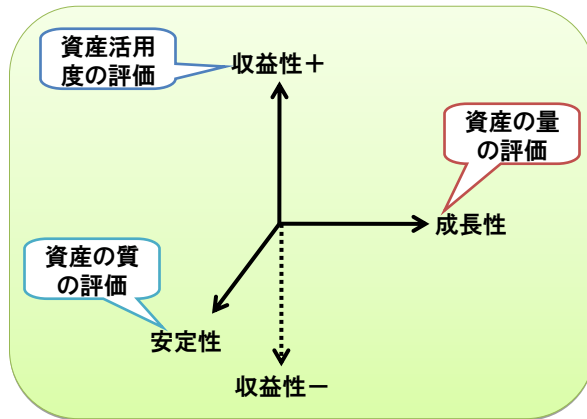
こういう考え方をもとに、今、京都経済同友会の中で幸福指標をつくらうとしており、安定性、成長性、それから収益性という3つの軸で考えているところです。安定、成長、収益性というのは、先ほど荒川区のご説明にありましたようにアウトプットではなくアウトカムということです。ですから、今ある資源をどれだけ活用できているかということになるので、プラスにもマイナスにもなります。必ずしも右肩上がりに上がっていくということではなく、下がることもあります。また視点数が同じでも中身の質を見ていく、そういう指標を今考えている段階でございます。

14. 今後の指標づくりに向けて

幸福会計
「心の会計」を可視化する



「3つの指標」で量と質を把握する



16